

幸せを実現できるまちを目指して

たくましく やさしい しなやかな 交流拠点CHINO

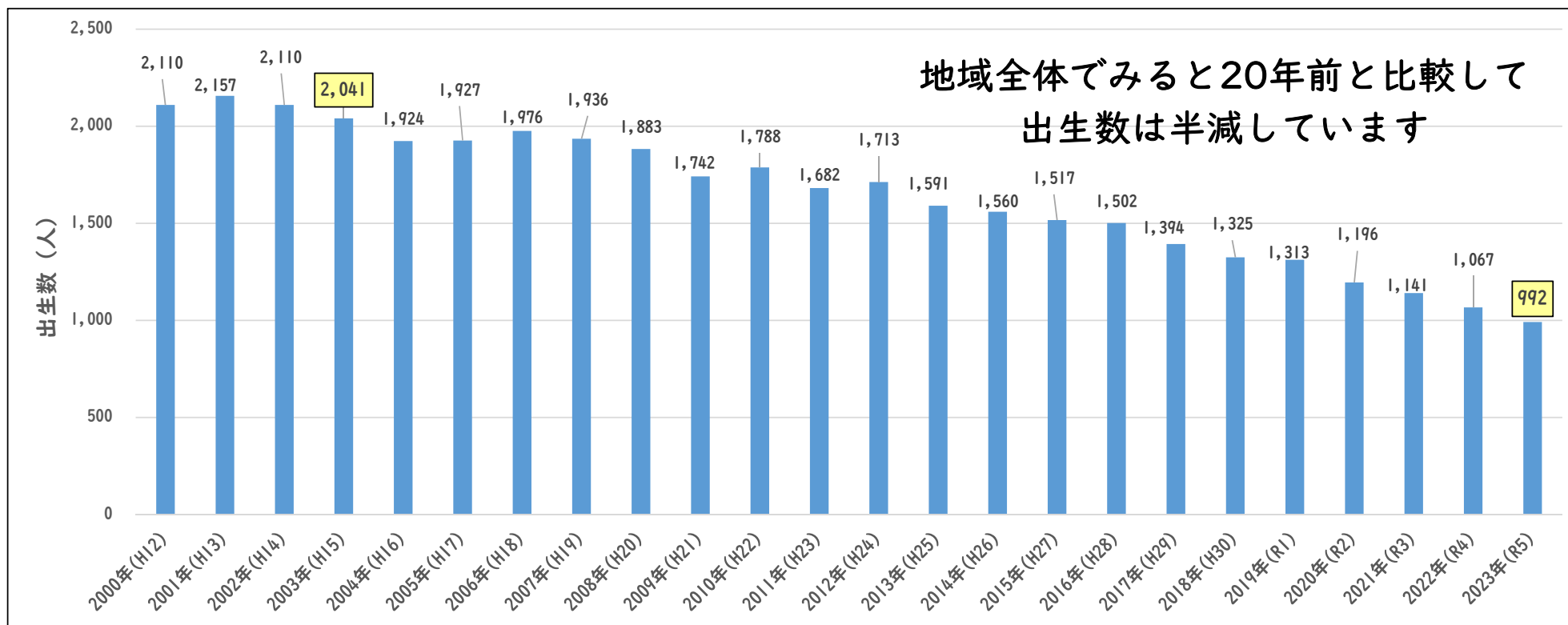
～将来を見据えたまちづくりへの挑戦～



令和6年度 まちづくり懇談会

I 総合計画を策定する前提の状況（少子化）

・諏訪地域の出生者数の推移



出典：「諏訪地域統計要覧」諏訪地方統計事務連絡会議

人口減少下における持続可能なまちづくりを進めていく必要があります。

2 「緩和」と「適応」のイメージによるまちづくり①

茅野市が安全に安心して、便利で快適に暮らせるまちであり続けるためには、**行財政改革**を進めながら、今のまちづくりの仕組み変えていくことが必要です。進めるにあたっては、「**緩和**」と「**適応**」のイメージを持つことが大切です。

「緩和」（ソフトランディングするために）

年々顕在化する**超少子化・超高齢化**により、今後確実に茅野市にもたらされる急激な社会経済の変化が、市民の生活や地域経済に及ぼす影響をできるだけ**緩和**するため、機に応じた対応策を講じることが求められます。

また、持続可能な地域社会の実現のためには、地方公共団体の枠を越えた**水平補完**や国・県との**垂直補完**が大切になってきます。

具体的には、

- ・ 移住定住の促進
 - ・ 若者や女性に魅力のある産業や企業の誘致、起業の支援
 - ・ フレイル予防（元気な高齢者増やす）
 - ・ 子育て支援
- など

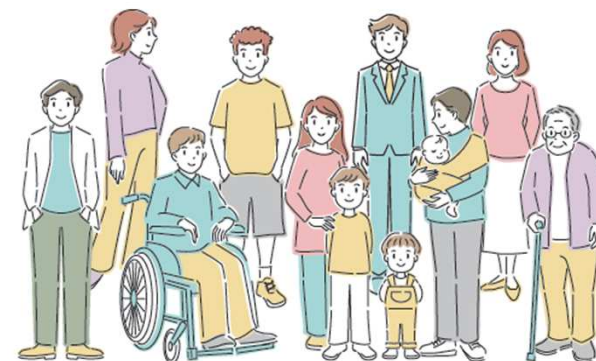
3 「緩和」と「適応」のイメージによるまちづくり②

「適応」 (生き残っていくために)

茅野市が大切にしてきたものを守り、育み、**未来につなげていく**ため、**新しい考え方や手段などを取り入れ**ながら、時代の変化に**適応**したまちづくりを進めることが求められます。

具体的には・・・

- ・ 区・自治会のモデル事業
- ・ 市内小学校のあり方検討
- ・ デジタル田園健康特区に関連した取組による
保健・医療・福祉の連携強化
- ・ 新地域公共交通の構築 など



4 茅野市の財政状況①

少し茅野市の財政状況についてみてみましょう。

令和5年度決算の状況からは

財政の健全性を判断する指標上は、問題ない

区分	内容	茅野市の比率	早期健全化基準
実質赤字比率	財政規模に対する一般会計の赤字の大きさ	—（赤字なし）	12.6%
実質公債費比率	財政規模に対する市債の返済額（公債費）の割合	7.5%	25%
将来負担比率	財政規模に対する将来負担すべき負担額の大きさの割合	45.1%	350%
資金不足比率	公営企業会計（水道、下水道）の資金不足を指標化し、経営状態の度合いを表したもの	—（資金不足なし）	20%

5 茅野市の財政状況②

令和5年度決算の状況は

実質収支は、約10億7千万円の黒字

決算上、基金の取崩しが必要なかった

ただし、**単年度収支**は、**約6億3,500万円の赤字(過去最大!)**

(令和4年度からの繰越金を除く令和5年度だけの純粋な収支)

令和4年度からの**繰越金(約17億円)**がなければ、
赤字を基金で穴埋めしなければならなかった。

【繰越金が多かった理由】
コロナによる事業や活動の
自粛や国からの特別交付金
があったことなど・・・

6 茅野市の財政状況③

茅野市財政の近年の現状



平成31年度 と 令和6年度を比較してみると

➤ **歳出**の一般財源 ⇒ 19億2千万円の**増**

➤ **歳入**の一般財源 ⇒ 5億3千万円の**増**

一般財源で
13億9千万円の
財源不足

【基金繰入額】

平成31年度 5億2千万円

令和 6年度 13億9千万円

基金の繰入れが
8億7千万円の増

7 茅野市の財政状況④

もう少し深堀してみると

【民生費の比較（一般財源）】

平成31年度 46億3,545万円

令和6年度 54億5,411万円

高齢化の進行や、国の制度改革によるものが大きく、市の裁量ではどうにもならないことが多い

民生費が
約8億2千万円の増

※民生費：高齢者や障害者に対する福祉の充実、保育園の運営等に要する経費

- 人口減少や超少子化、高齢化の進行に伴う民生費の伸びを基金で穴埋め
- 既存事業の見直しをしないまま、新規事業を展開するには、その財源として基金を活用しないと・・・しかし、基金も減って無くなってしまう



茅野市は政策の転換に向けた大きな岐路に立たされている

8 多様な交流が幸せを実現できるまち原動力

幸せを実現できるまち



私たちが幸せを実現するための原動力は、
多様な **交流** であると考えます。

人の交流が常にまちの中心にあることは、

いつの時代も変わらない**茅野市の強み**です。
人口減少下の今だからこそ、新たな仕組みも整えて

交流を拡大し、これまで茅野市が培ってきた
まちの **たくましさ**、**やさしさ**、**しなやかさ**

に更に磨きをかけ、新しい時代に対応した、

幸せを実現できるまちの実現を図りたいと
考えています。

9 「幸せを実現できるまち」の具現化を目指して

(1) 安心して快適に暮らせるまち

茅野市に暮らすすべての人が、安心・安全に、快適な生活を送ることができる確かなまち

保健・医療・福祉、都市基盤、
防災、環境・衛生、公共交通、
行政経営

たくましさ
やさしさ
しなやかさ

(2) 心豊かに学び育ち活躍できるまち

心豊かな学びを通じて生きる力を育みながら、
地域での支え合い、助け合いやつながりの中で、
生涯にわたって活躍できるまち

子育て・教育、文化・芸術、
生涯学習、人材育成、
地域コミュニティ

(3) 活力と魅力があふれる 稼げるまち

市内外の人や企業が茅野市で稼ぎ、その恩恵を
地域が享受する好循環を生み出すことにより、
若者に選ばれ、賑わいや魅力があふれるまち

中心市街地活性化、産業振興、企業誘致、
女性の活躍、移住・テレワーク

10 市民と行政が一緒にまちづくりを進めるための3つのポイント

1

目的志向 ～ ゴールから考える ～

目的、目標の達成のために 必要なこと、不要なことを考える。
変えること、変えないことを考える。

2

未来志向 ～ 未来への種まき ～

10年後、20年後の未来の茅野市のために
今からできることを考える。
この5年間でできることを考える。

3

自分ごと化 ～ 自分がつくるみんなの茅野市 ～

目的、目標の達成のために 未来の茅野市のために
それぞれの立場でできることを考え、行動する。

Ⅱ これからの茅野市のまちづくりの普遍的テーマ

第6次茅野市総合計画基本構想では、
これからの茅野市のまちづくりの目的（普遍的なテーマ）は

幸せを実現できるまちです。

茅野市に住む人、働く人、関わりのある人、
茅野市を訪れる人など、あらゆる人が、自己実現を通じて、
その人なりの**幸せを実現できるまち**、その幸せがまた別の
誰かの幸せにつながっていくまち、
そして、その幸せの連鎖が未来に向かって続いていくまち
そんなまちを実現することが、茅野市のまちづくりの目的です。

